



各教室の入口に設置された手指用の消毒液。手の消毒の習慣化も with Corona 下での指導の一環となっています。

企画・編集 澁谷 健司/栗又 由利子

10月に入り、気が付けば、周囲は秋の気配。朝夕の肌寒い空気や、日の短さ等、どことなく静のイメージが近づいてくる季節となりました。しかし、当校は8月末から再開したベトナム人実習生の入国が順調に進み、9月にはタイ人の実習生の来日があるなど、4月以来の静寂の時期から一変、躍動の兆しが見え始めています。教室に実習生の皆さんの笑顔が戻ってきたことで、学校自体に活気が戻りつつあります。14日間の寮での待機期間中のリモート授業や、with Corona 下での感染防止対策の徹底等、新たなチャレンジも増えている中ではありますが、今後予想される他の国々からの実習生の入国再開に備え、実習生の皆さんが安心して日本語の授業に取り組めるよう、引き続き万全の対策を講じていきたいと思ひます。

## あじけんスコープ Vol.90 ~ with Corona の教室風景 ~



今月は、約半年ぶりに、ようやく本格再開した日本語の授業の様子をお届けしたいと思います。

まず、感染防止対策として、いわゆる3密の密接と密集を避ける為、学習者の数を減らし、座席間の間隔を確保しています。また、飛沫拡散防止のため実習生はマスクを常時着用。それに加えて、発話時には、自作のフェイスガードを使用します。講師は、口元をしっかりと学習に見せる観点から、マスクは付けず、常時フェイスシールドを装着して、飛沫の拡散を抑えています。密閉対策は、教室の窓を常に開けておくことに加え、休み時間には、当番の実習生が、窓とドアを全開にして、教室内の空気を入れ替えることで、室内の換気の徹底を図っています。

## 今月の実習生

今月の実習生は4月以降の来日2ヶ国目となったタイからの実習生の皆さんを紹介します。

新型コロナウイルスの感染拡大防止策の影響で約3ヶ月間来日が延び、来日後も14日間の寮での待機を余儀なくされた皆さん。日本の現状に比べると、タイでのウイルス感染拡大は、随分抑え込まれているので、ウイルス感染への不安を抱えての日本滞在のようですが、皆さん、コロナに負けず！元一杯で、毎日、日本語の授業に励んでいます。



後列向かって左から THIKAPONG JIRAYUT (ジラーユット) さん KHAMSON TEANCHAI (ティアンチャイ) さん WONGSA KRIANGKAI (クリアンカイ) さん

前列向かって左から CHAIYARAT PHICHAYA (ピッチャヤ) さん SURIYES KAMPHON (カムボン) さん

(写真撮影の為マスクを外してもらっています。)

# あじけん流日本語授業

## ～「やさしい日本語」について～

今回のあじけん流日本語授業は、「やさしい日本語」についてお伝えします。

「やさしい日本語」とは、「伝わりやすい」日本語という意味です。聞いている相手にとって「易しい」コミュニケーションという意味と、相手を思う「優しい」コミュニケーションのどちらの意味も含んでいます。

日本に滞在する外国の人たちが増え、いろいろな団体、機関で「やさしい日本語」というキーワードが使われるようになりました。日本人側が何か言語を覚えるのではなく、自分の日本語をアレンジすることによって、コミュニケーションを図っていくというひとつの手法です。「外国人＝日本語がわからない」と考えがちですが、実習生はもちろんのこと、日本語のわかる外国人も多く存在します。ただ、漢語（漢字2字以上で作られている言葉）や、敬語、擬音語、擬態語などは、日本語がよくわかる外国人にとってもわかりづらいといえます。

「やさしい日本語」は、高齢者には高齢者向けに話し方を変えたり、子どもには使用する言葉を考えたりするように、外国人にわかりやすいように自分の日本語を少しアレンジするということです。「言語を調整すること」と考えていただければと思います。例えば、以下のようにアレンジをすると、伝わりやすくなります。

- ・避難してください → 逃げてください
- ・こちらにおかけください → ここにすわってください
- ・ザアザア降りだね → 雨がたくさん降っていますね

特に、擬音語擬態語は、日本人が小さい頃から耳にしているため、また、小さい子どもにわかりやすいように伝えるために使用するため、つい簡単な表現だと思ってしまうのですが、これは、上級の日本語話者にとっても非常に難しいそうです。

実習生への「やさしい日本語」のポイントもご紹介いたします。

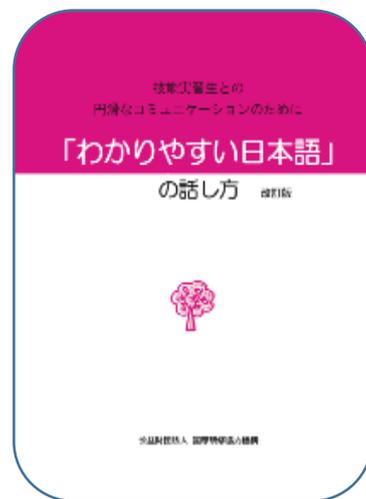
- できるだけゆっくり話す。
- テキストで勉強をしてくれているので、「です」「ます」などをつけて話す。
- シンプルな文（二重否定などは避ける）で、短文で話す。

こういった点を少し配慮すると伝わりやすくなるかと思えます。

JITCOのHPにある「わかりやすい日本語の話し方」ではさらに

詳しく紹介されています。

[https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/jitco-prd-nhp/wp-content/uploads/2019/12/20160920/nihong\\_hanashikata.pdf](https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/jitco-prd-nhp/wp-content/uploads/2019/12/20160920/nihong_hanashikata.pdf)



当校でも、文化庁の委託事業として平成24年から29年までの6年間、「やさしい日本語」の普及に努めてまいりました。文化庁のHP (<http://www.nihongo-ews.jp/contents/view/%3Fid%3D1111> 平成29年度報告書)にも報告書が掲載されています。「企業へのやさしい日本語研修」等、「やさしい日本語についてもう少し知りたい」「企業としてやさしい日本語を勉強したい」などありましたら、お問い合わせください。

今後も実習生がより良い実習が送れるよう、日本語教育により一層尽力してまいりたいと思っておりますが、実習生とのコミュニケーションでは、ぜひ「やさしい日本語」も意識していただければありがたいです。

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます。